

果樹カメムシ情報第1号

ウメやモモへの果樹カメムシの飛来数は平年並

平成21年4月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

1 平成21年のチャバネアオカメムシ越冬密度調査結果

果樹カメムシ類の主要種であるチャバネアオカメムシの越冬成虫密度調査を県内15地点で行った結果、平均越冬密度は0.44頭/m²、発生確認地点率は67%で(表)それぞれ過去10年で多い方から5番目、4番目でした。越冬成虫密度の年次変動は5~6月までの予察灯累積誘殺数の年次変動の予測に利用できます(図1)。

表 チャバネアオカメムシ越冬成虫密度(H21年)

調査地点	成虫密度 (頭/m ²)
幸田町大字須美北山北	0.3
幸田町大字須美北山東	0.0
新城市大海	1.3
新城市市川	0.7
新城市中宇利	0.7
新城市稲木	0.7
豊橋市嵩山	0.3
豊橋市石巻中山	0.0
豊橋市石巻萩平	0.0
豊橋市石巻平野	0.7
豊橋市小野田	0.3
豊川市平尾	0.0
豊川市千両	0.0
豊川市足山田	0.7
豊川市金沢	1.0
平均	0.44
発生確認地点数(割合)	10(67%)

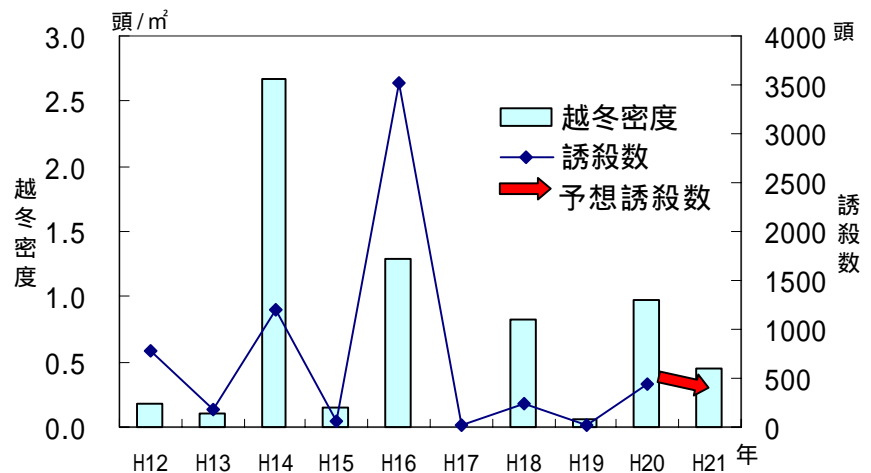


図1 チャバネアオカメムシの平均越冬密度と予察灯誘殺数(豊橋・新城5~6月)の関係

2 スギ・ヒノキ科花粉総飛散数と越冬成虫の予察灯における誘殺数の関係

スギ・ヒノキ科花粉総飛散数が少なかった年の翌年は、5~6月までのチャバネアオカメムシ越冬世代成虫の予察灯誘殺数が少なくなる傾向にあります。平成20年のスギ・ヒノキ科花粉総飛散数は、平成16年に次いで過去10年で2番目に少ない年でした(図2)。

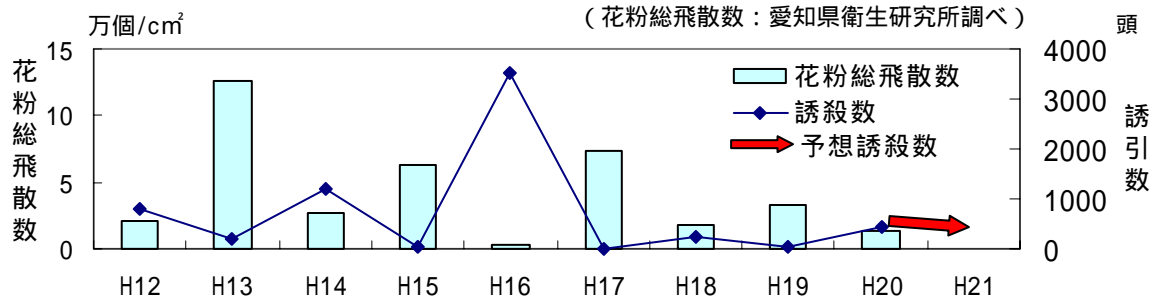


図2 スギ・ヒノキ科花粉総飛散数とチャバネアオカメムシ予察灯誘殺数(豊橋・新城5~6月)の関係

3 飛来の予想

今年のチャバネアオカメムシ越冬密度および前年のスギ・ヒノキ科花粉総飛散数から、今年6月末までの果樹カメムシ類の飛来数は平年並と予測します。